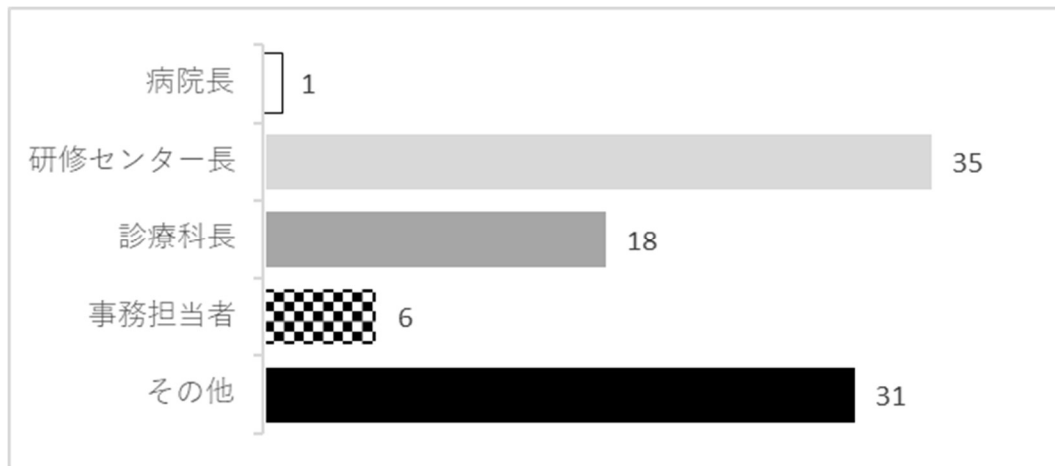


2021 年度 卒業生の学修成果に関する調査

本学卒業生が就職した初期臨床研修先施設に対しアンケートを実施しました。
個別調査票を郵送し、web データ集積管理システム REDCap でご回答いただきました。

実施期間	2022 年 2 月 15 日～4 月 25 日
2020 年度就職者数	94 名
対象者数	88 名（本調査に同意した者）
有効回答数	79 名（回答率 89.8%）

1 回答者について



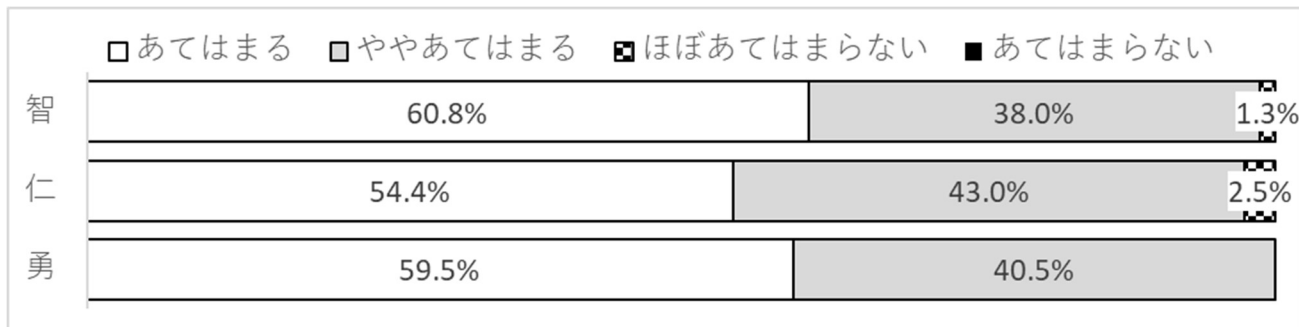
(複数回答可)

その他：医局長、診療局長、指導医、病棟主任、研修委員会委員、プログラム責任者、研修センター教員、研修担当者など

2 卒業生の学修成果について

2.1 本学の理念

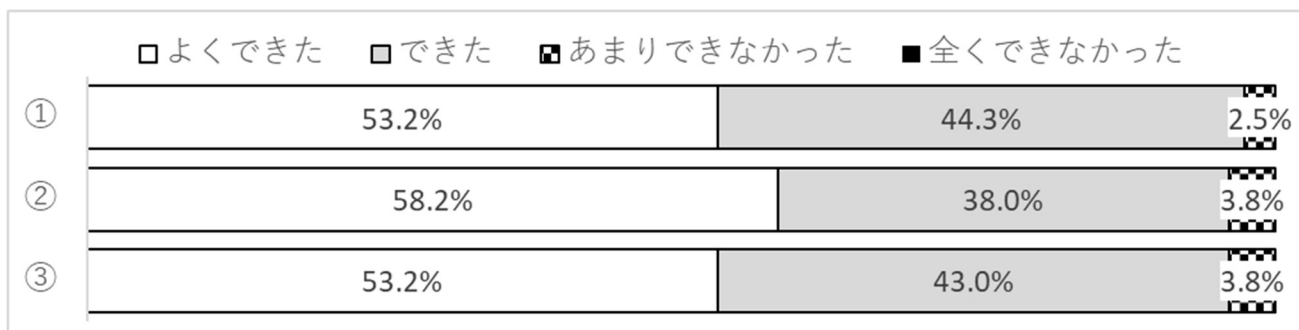
- ・「智」すなわち医学的知識と技能を習得することのみならず、効果的な学修のためのアルゴリズムを獲得し、生涯にわたる自学自習を開始できる
- ・「仁」すなわち人を分け隔てなく、温かく受け入れる心を身につけ、国際的視野を持ち、人類に貢献する高い志を習得している
- ・「勇」すなわち科学的思考に基づいた判断力・問題解決能力を身につけ、修得した医学を実践する決断力を習得している



2.2 本学の卒業時コンピテンス・コンピテンシー

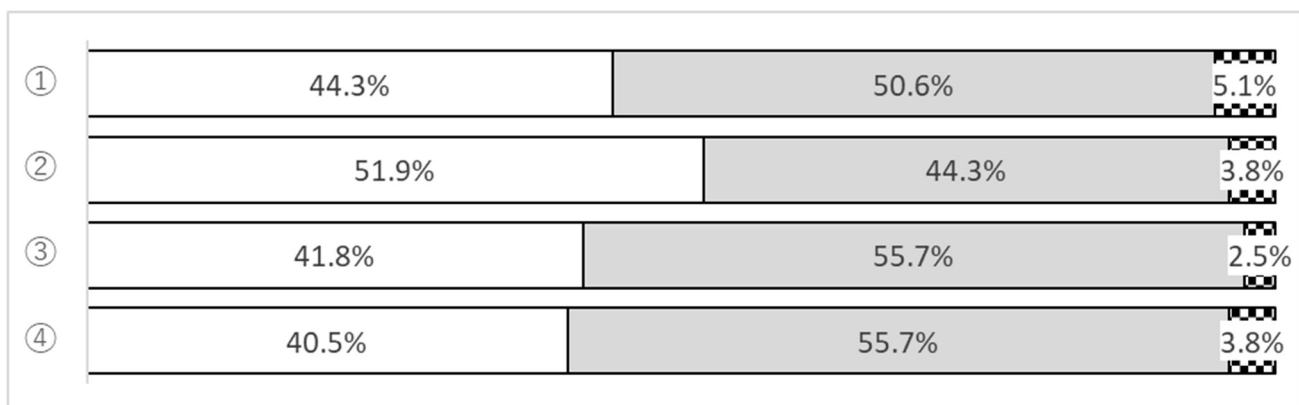
【プロフェッショナリズム】

- ① 患者および家族のニーズを認識し、患者中心の医療を提示、実践することができる
- ② 医療専門職として社会における自己の役割を理解し、継続的に学修することができる
- ③ 高いモラルを持ち、品性のある行動をとることができる



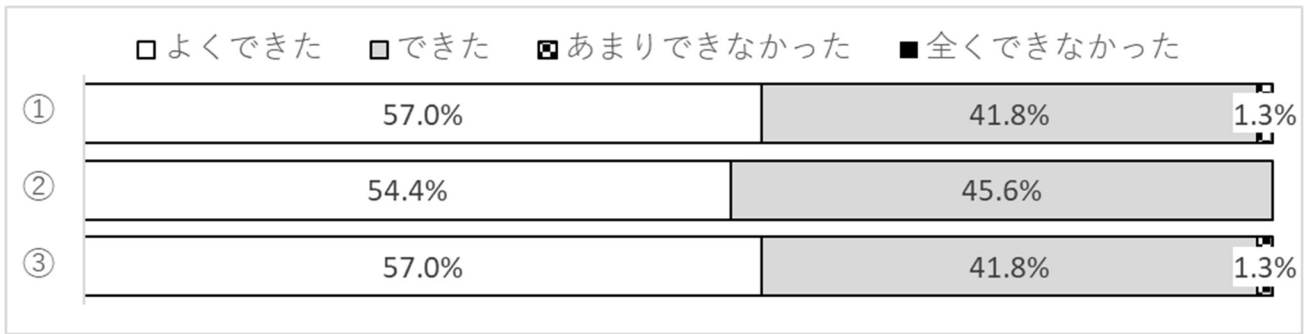
【医学知識と問題対応能力】

- ① 診療や研究の基盤となる基礎医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる
- ② 診療や研究の基盤となる臨床医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる
- ③ 診療や研究の基盤となる社会医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる
- ④ 医療の基盤である生命科学、行動科学などの関連領域の知識と原則を理解し、医療の現場で実践することができる



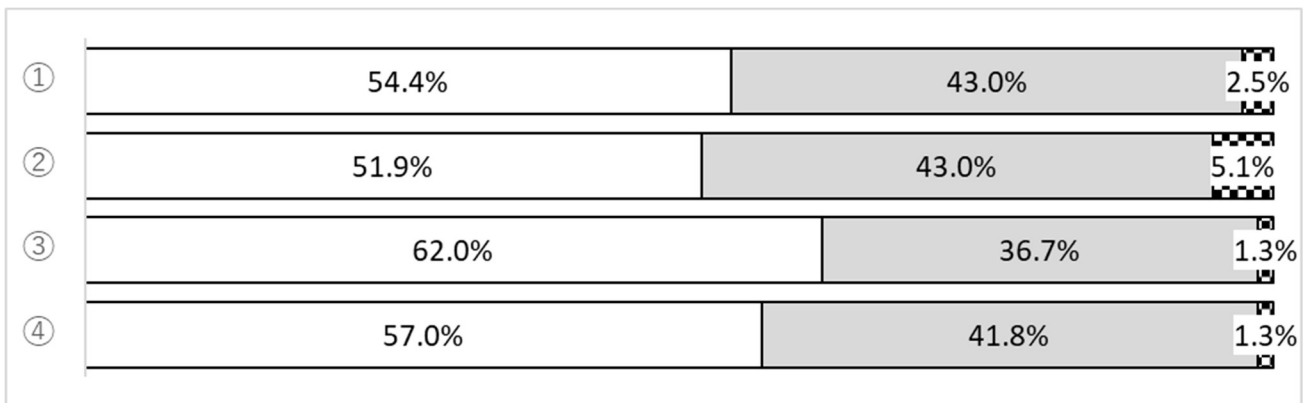
【診療技能と患者ケア】

- ① 論理的で体系的な医療面接、身体診察を行うことができる
- ② 頻度の高い疾患に関して、適切な鑑別診断と治療戦略を立てることができる
- ③ 基本的な臨床手技や緊急救命処置を安全に実践することができる



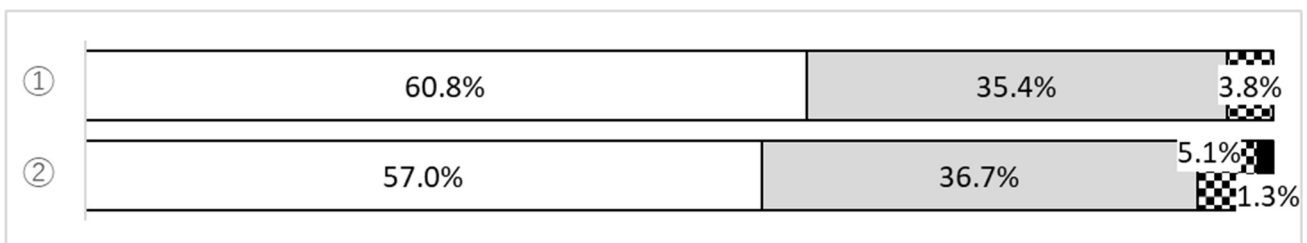
【コミュニケーション能力】

- ① 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援することができる
- ② 患者や家族の抱える問題を身体・心理・社会的側面から把握することができる
- ③ 適切な症例プレゼンテーションを行うことができる
- ④ 患者の状態について、報告・連絡・相談ができる



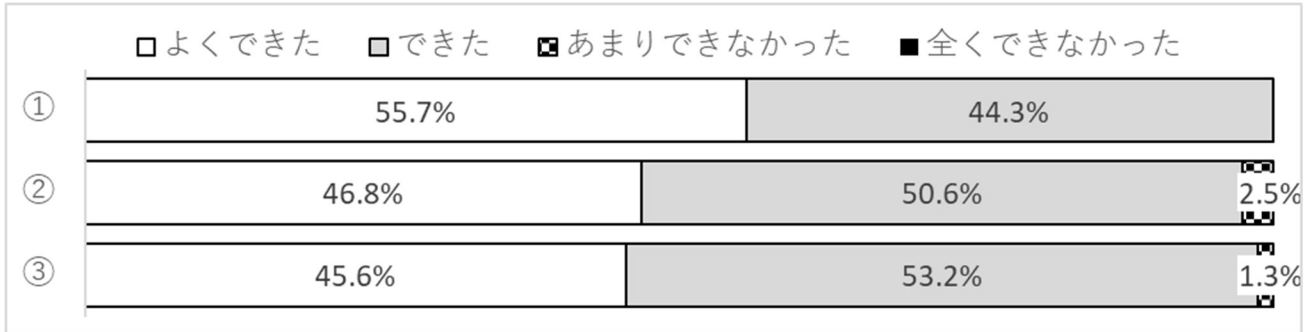
【チーム医療の実践】

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する
- ② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る



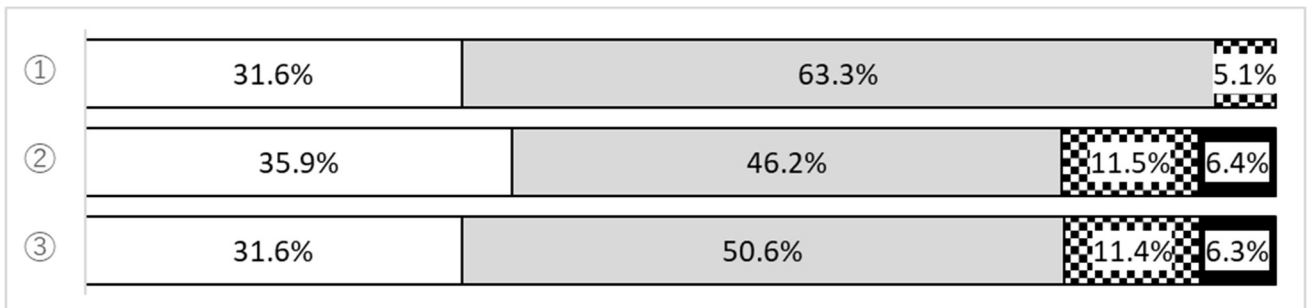
【医療の質と安全の管理】

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解する
- ② 医療事故等の予防と事後の対応を知る
- ③ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む）を理解し、自らの健康管理に努める



【社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力】

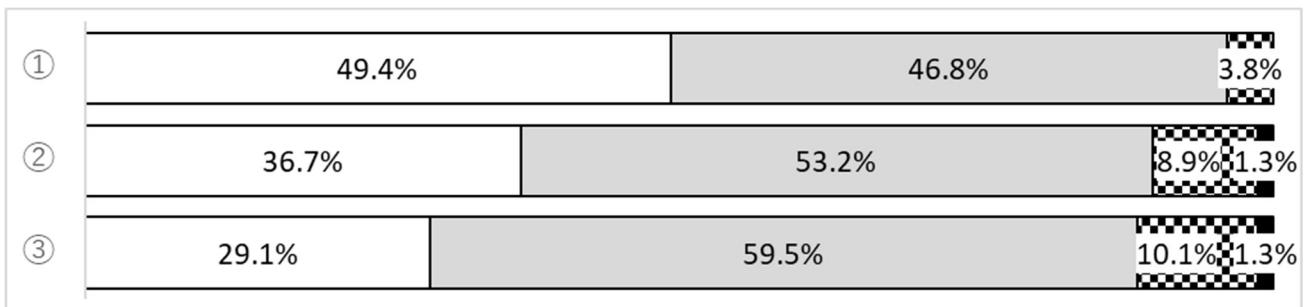
- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する
- ② 大阪の地域医療に携わり、指導/監督のもと診療に参加できる
- ③ 大阪の医療の現状、課題を理解する



※②、③について、「ほぼあてはまらない」「あてはまらない」と回答のあった17レコードのうち、11レコードは大阪府外の施設でした。

【科学的探究】

- ① 医学及び医療上の疑問点を挙げることができ、適切にエビデンスを収集できる
- ② 科学的研究方法を理解する
- ③ 研究の意義を理解し、参加、協力できる



【生涯にわたって共に学ぶ姿勢】

- ① 国際的な広い視野をもち、急速に変化・発展する医学知識を学び、吸収できる
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことができる



2.3 総合評価



2.4 ご意見

- ・周りがみえている。自分に求められていることに結果を出せる。
- ・よかったですと思います。研修ではもっと首をつっこんでもよいと思います。
- ・当院に専攻医として残ってくれる事になり、コメディカル含め皆喜んでいました。
- ・真面目に研修に取り組み、積極的に病棟診療に参加しています。今後も努力を重ねて成長を続けて下さい。
- ・長時間の手術もあり体力的にも大変だったと思いますが、予習もしっかり行っており意欲的に研修を行っておりました。
- ・今までの研修医の中では、特に優秀です。 研究熱心さ、コミュニケーションの技能、チームワークなどは特に優れています。
- ・非常によく頑張ってくれております。スタッフや他職種とも良好なコミュニケーションをとれており、安心して仕事をお願いできます。
- ・初期研修期間中も同期のレジデントマネージャーの一人として、同期をよくまとめ、リーダーシップも発揮できる活躍を見せていました。
- ・時折体調不良となることがあり、また人間関係で悩んでいた時期もあったが、概して臨床研修には真面目に熱心に取り組んでおり、理解力・判断力も高い評価を得ていた。
- ・どこの科に行っても熱心に診療、知識の吸収に努めていました。看護師さんやコメディカルの方たちとも、上手にコミュニケーションとっていました。これからは楽しみな先生です。
- ・麻酔科志望であり、当科に入局予定であったため、腹部外科症例だけでなく、産科麻酔や呼吸器外科麻酔など、少し複雑な麻酔も研修して頂きました。とても熱心に研修を行い、色々な麻酔方法を学んで頂けたかと思います。
- ・臨床研修推進委員会の委員として、4名の同期研修医のまとめ役を進んで担ってくれました。報告・連絡・相談に努めてくれたので、安心して研修の進捗状況を眺めることが出来ました。Up To Date などの二次情報を積極的に利用してもらえると、なお深い初期研修になったのではないかと思います。
- ・消化器外科志望ということもあり、消化器外科手術の麻酔を中心に担当して頂きました。非常に熱心に研修を行って頂き、患者診察を含め麻酔診療を問題なく行うことができていました。

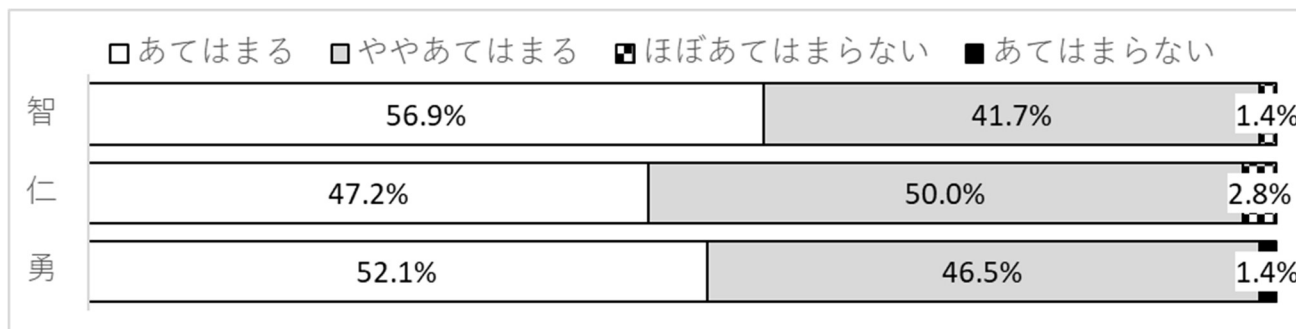
静脈ルート確保や気管挿管などの基本的な手技も、最初は荒いところも見受けられましたが、徐々に上達し、最終的には全く問題ないレベルになっていました。熱心に練習して頂いた結果だと思います。

- ・非常に熱心に研修を行って頂きました。脳外科志望ということもあり、脳外科手術を担当して頂くことが多かったのですが、管理困難な症例に対しても、よく勉強をして対処することができていました。術前、術後診察などの患者診察もきちんと行えており、診察上の疑問点などを上級医と共有することができていました。最初は静脈ルート確保などの基本的な手技が少し荒いところも見受けられましたが、研修を経て技術も向上し、最終的には全く問題ないレベルになっていました。
- ・常に、積極的に学ぶ姿勢を持ち、自らの知識や技能を高めるために、指導医、上級医や各部署の長と相談しながら、研修プログラムや環境を向上させつつ研修を行っていた。また、多職種や患者・患者家族とのコミュニケーションも良好に取れていて、さらに患者を行動科学的に診るために、心療内科での研修を行うなど、将来を見据えた研修を自ら計画できていた。科学的な探求に関して、指導も十分ではなかったこともあり、もう少し努力が必要な状況でしたが、今後は、国際的な広い視野での科学的探求も視野に、進路を決めているため、成長が期待されます。
- ・提出物の提出が遅れがちでした。
- ・すこしビビリ。もっと自信をもって。
- ・少し大人しく、控えめな印象を受けました。
- ・おとなしい人ですが、経験を積んで自信をもってもらいたいです。
- ・石橋を叩いて渡る性格です。もっと積極的に丁度いいくらいです。
- ・興味のある事と興味ない事に対しての姿勢が大きく違う点の改善が望まれる。
- ・一月の研修期間に有給休暇を集中しないよう、研修センターにてコントロールをお願いします。
- ・見た目とは異なり、感受性が高く、精神的に脆い面があり、その点では度々フォローが必要となった。一方、後輩への面倒見は良く、指導にも熱心に取り組んでいた。
- ・学習能力は高く、診療に対しては良く頑張っていた。しかし、集団生活の中で研修を進めるにあたり、決められたルールや期限を守れない事が多かった。個人面談でもその点についてふれ、医療者としてだけでなく、社会人として求められる行動をとることを意識するよう指導した。
- ・疾患に対する学習意欲はあり、患者診察も行えていた。しかし、チーム医療を実践するにあたり、対する職種により対応が変わったり、自身の判断基準を中心とした自己中心的行動が目立った。個人面談の際にもその点について話したが、自身ではあまり気づいていなかったため、今後は一度相手の立場になって考えうえて、発言、行動するよう提案した。

3 本学卒業生全体の印象について

3.1 本学の理念

- ・「智」すなわち医学的知識と技能を習得することのみならず、効果的な学修のためのアルゴリズムを獲得し、生涯にわたる自学自習を開始できる
- ・「仁」すなわち人を分け隔てなく、温かく受け入れる心を身につけ、国際的視野を持ち、人類に貢献する高い志を習得している
- ・「勇」すなわち科学的思考に基づいた判断力・問題解決能力を身につけ、修得した医学を実践する決断力を習得している



3.2 本学の大学教育についてよいと思うこと

- ・積極性がある。
- ・きっちり教育できている。
- ・他病院実習が充実している点
- ・自分発信で動ける医師に育ってきてます。
- ・症例提示など総合的な教育がなされている
- ・ひとの目をみて話ができる。聞く力がある。
- ・学生さんは熱心に勉強されていると思います。
- ・自由闊達 自主性が尊重されているように思います。
- ・気さくで、患者さんに親しまれる先生が多いように思います。
- ・卒後臨床研修センターの研修医サポート体制が細やかで、行き届いています。
- ・学生にとってどう意欲を引きだせるか、常に議論されている気がしております。
- ・自身も本学出身であるが、我々の頃と比べて非常に教育のカリキュラムがしっかりと確立されている印象。
- ・大変素晴らしい教育をなさっていると思います。本学出身者は基本的に研修態度も良く、理解力も高く優秀です。
- ・卒後までしっかりリサーチされておりさすがです。これからも良医の育成とともにてをたずさえてまいりましょう。
- ・他大学に比べて学生時代から臨床現場を多く経験しているように思います。研修医スタート時点での経験値は高いと感じます。
- ・医学知識のみでなく、人間性の構築、プレゼンテーション能力などの教育なども、他大学より、優れていると思うことが多いです。
- ・学生の中に、かなりの知識と、医師としての心得が身につけており、他大学出身の学生に比べても、優れている人材が多いと思います。
- ・全体的に熱心に研修を行ってくれる学生が多いと思います。また卒後臨床研修センターの先生方の熱意に牽引されて、教育に関して熱心な先生が増えてきていると思います。
- ・他病院でも貴大学の卒業生の臨床研修医指導に携わってきましたが、みな非常に意欲をもって

研修に取り組んでおり、大学においても卒業後をみすえた教育が行われているのだと感じました。

- ・非常によく頑張ってくれております。スタッフや他職種とも良好なコミュニケーションをとれており、安心して仕事をお願いできます。早くから臨床における医師としての自覚を促すよう配慮されていると感じます。
- ・積極的に学び、行動できる医療者の育成。多職種との協調性のある医療者の育成。患者も含めた医療現場で遭遇する人々とのコミュニケーション能力を育てる教育。不確かなこと・知らないこと、をそのままにせず、問題点を明らかにして、安全・安心な医療を行う医療者の育成。シミュレーターでの技能の習得による医療安全教育も積極的に行う医療者の育成。
- ・厚生労働省の初期臨床研修ガイドラインを先取りする形で、医学生の教育を手掛けている点が優れていると考えます。病歴要約の考察もしっかりと記載しており、学生時代から学問に真摯に向き合う習慣が身に付いている様子が伺えます。当院を志望する医学生の傾向として、コミュニケーション能力があり他の研修医やコメディカルスタッフと良い関係を構築できています。また、患者さんからの信頼も得られています。

3.3 本学の大学教育について改善すべきと思うこと

- ・みんな、いい子すぎる？
- ・大学で剖検数が増えてほしい
- ・天才と〇〇を許容する懐の深さが望まれます。
- ・内科のおもしろさが伝えきれてないと感じる。
- ・世の中うまくいかないこともあるよ、をうけいれられるよう。
- ・しぼりつけすぎではないか？ もっと余裕があってもいい気がする。
- ・科学的探究や学会・研修会に参加するなど研究活動に関しては、学生によって温度差がある。
- ・市大というよりも、研修制度が変わってから、受け身な研修医の先生が多いように思います。
- ・前述のメリットを学生に理解してもらい、より積極的な臨床実習への取り組みを促すのがよいと思います。
- ・仕方ないのかもしれませんが、全体的に受け身な学生、研修医が多いような気がします。当科としても、より積極的に参加して頂けるような研修を行いたいと思っています。
- ・学生さんはよいのですが、研修医はもっと責任感をもって診療にあたってもらいたいです。現行のシステム上やむを得ないのかもしれませんが、1年目から主治医としての気概を持ってもらいたいです。
- ・「研修医の病棟での存在感が薄い」との看護師からの指摘があり、臨床研修センターとして今後の課題と考えています。研修2年生になると時間外に経験した症例のピアカンファレンスを自主的に開催する、といった積極性を身に付けてほしいと思います。
- ・本学を卒業して研修に来る者は、他大学出身者と比べて概して学習能力が高く、多くの事柄に平均点以上の結果を出す場合が多いが、そこで満足してしまっていて、よりその分野を突き詰めていく熱心さには欠けていると思われる場合が多い。より貪欲に知識を深めてやろうという熱心さを持った学生を育てていただければと思います。
- ・個々の学習能力は高いが、2年間の研修期間で、自らより多くの事を学ぼうとする積極性に乏しい印象である。ある意味、効率を重視し、どうすれば研修終了に必要な項目を最小限の努力でクリアできるか考えている。臨床研修は医師として実際の診療を開始する（しなければならない）場である。卒業時には、実践で使えるような知識をしっかり習得しておいてほしい。
- ・大阪市立大学卒業生はという質問に関しまして、一概に答えることは難しいと思います。当

該研修医ですが、研修医としての態度は満たしていると思われましたので、「よくできた」と評価させていただきました。相対評価で差をつける必要があるのでしたら、「よくできた」に加えて「大変（特に）よくできた」を選択しとして加えていただけますと、選択しやすいと思います。